

普天間飛行場へのオスプレイ配備計画に反対する声明

平成23年6月、日米両政府は海兵隊次期主力輸送機として垂直離着陸輸送機MV22オスプレイを平成24年10月に普天間飛行場に配備すると正式に発表した。

MV22オスプレイは、開発段階から事故が多発し、去る4月11日にアフリカのモロッコで2人が死亡、2人が重傷を負う墜落事故が発生。さらに、6月13日にも米国のフロリダで5人の負傷者を出す墜落事故を起こしたばかりであり、安全性の問題が強く指摘されている。

米国の環境調査の詳細データによると、MV22オスプレイの想定される飛行ルートは、米軍基地の所在しない市町村連絡協議会を構成している豊見城市、中城村、西原町、与那原町、南風原町を含む中南部地域の上空も見込まれていることから、県民の命を危険にさらすものであり、到底容認することはできない。

また、普天間飛行場にMV22オスプレイが配備されることは、基地の機能強化及び固定化につながるものであり、断じて受け入れできるものではない。

そもそも、普天間飛行場の移設問題の本質は、住宅地の中心に存在する「世界一危険な」同飛行場の早急な危険性の除去にある。世界一危険な普天間飛行場に、墜落死亡事故が多発している危険極まりないMV22オスプレイの配備計画は、まさに「危険性の機能強化」であり、断じて許されるものではない。

よって、本協議会は、県民の生命、財産、日常生活の安全及び生活環境を守る立場から、普天間飛行場へのMV22オスプレイ配備計画に反対するとともに、下記事項を本協議会の声明とする。

記

- 1 基地の機能強化及び固定化につながるMV22オスプレイの配備計画を撤回すること
- 2 世界一危険な普天間飛行場を固定化せず、即時閉鎖・早期返還すること
- 3 沖縄県の基地負担軽減を着実に実施すること

平成24年7月23日

米軍基地の所在しない市町村連絡協議会

会 長	沖縄県南風原町長	城間俊安
副会長	沖縄県豊見城市長	宜保晴毅
副会長	沖縄県与那原町長	古堅國雄
副会長	沖縄県西原町長	上間 明
副会長	沖縄県中城村長	浜田京介